

# 保育者が捉える子どもの「気になる」行動に関する文献検討

## Literature Review on “Concern Behaviors” of Children as Childcare workers’ Perception

山本 有 西田 志穂  
Yu Yamamoto Shiho Nishida

キーワード：子ども、気になる行動、保育者、文献検討

key words：Child, Concern behaviors, Childcare workers, Literature Review

### 要 旨

目的：文献検討により、保育者が子どものどのような行動を「気になる」と捉えているのかを明らかにした。

方法：2001年から2022年9月までの文献を「保育」「気になる」「行動」のキーワードで検索した。24文献を対象とし、保育者が「気になる」と捉えている行動を抽出し、特徴の類似性を分析した。

結果：子どもの「気になる」行動は、集団活動ができないなどの保育者が困っている「気になる」行動、他児と関われないなどの他児への関心の示し方が定形発達にみえない「気になる」行動、不器用などの子ども本人が困っているようにみえる「気になる」行動、他児への乱暴などの他児が困っているようにみえる「気になる」行動の4つに大別された。

考察：保育者は子どもの目にとまりやすい行動から、目にとまりにくい行動まで様々な行動を「気になる」と捉えており、「気になる」行動をとる子どもを考慮したクラスづくりをしていることが考えられた。

## I. 序 論

### 1. 研究背景

近年、発達障害をもつ少年の非行が増加傾向にある。法務省の少年矯正統計調査によると、発達障害と診断された非行少年は2016年では約8.0%だったが、2021年では約12.3%まで増加している<sup>1) 2)</sup>。発達障害と診断された少年の非行の背景要因について少年院や少年鑑別所では約半数の施設で「入所までに診断や社会の中でサポートを受けてきていない、もしくは気づかれていない」ことが挙げられていた<sup>3)</sup>。

今日、発達障害に気づかれないまま成人期を迎え、社会生活での困難感や不具合が生じて、はじめて発達障害と診断されることが珍しくない。就職後、言われたことしかできない、挨拶のタイミングが分からない、一方的に延々と趣味の話をする等の行動が目立ち、カウンセリングを経て精神科受診をして自閉スペクトラム症（アスペルガー障害）と診断されたケースがある<sup>4)</sup>。

発達障害は気づかれにくいことが幼児期から問題となっている。発達障害の診断はされていないが、個別の配慮が必要な「気になる子ども」の存在が保育所、幼稚園（以下、就学前施設とする）

などで報告されている。日本保育協会の2015年度調査によると、809か所の施設で約9割以上の幼稚園教諭、保育園保育士（以下、保育者とする）が「気になる子ども」の存在を認識している<sup>5)</sup>。同調査では、保育者が「気になる」実態として、発達の遅れなどの「発達上の問題」、集団活動に参加できないなどの「コミュニケーション」の課題、感情のコントロールなどの「情緒面」、不器用などの「運動面」などが挙げられている。発達障害や発達障害を疑われる子どもの支援について、非行予防の観点からも発達障害の早期発見と早期の適切な支援を進めていく必要があり、診断を満たすほどの障害の有無にかかわらず、学業不振や不器用さに対する個別的な支援を充実させていく必要があることが指摘されている<sup>6)</sup>。

就学前施設における支援の一つとして巡回相談がある<sup>7)8)</sup>。巡回相談は、発達障害の対応に詳しい専門家が、保育所や小学校等を訪問し、生活の場において対象となる子どもを観察し、子どもの対応や環境調整について検討を行う支援方法である<sup>9)</sup>。しかし、約5~6割の保育所で1年間に1~3回程度の実施であり<sup>7)</sup>、支援に関して十分な機会がないことが報告されている。

看護職の支援は、就学前施設訪問やケース検討会が行われている<sup>10)</sup>。しかし、保育者は施設訪問に来る保健師との関わりが少ないため、連携している感覚を持ちにくいことや情報提供が一方的であることを感じていた<sup>11)</sup>。非行予防を見据えた幼児期からの支援を充実させ、看護職が行う支援の在り方を検討していくために、まずはどのような行動が「気になる」とされているか分析する必要がある。

そこで本研究では、「気になる子ども」のどのような行動を保育者が「気になる」と捉えているのかを先行文献から明らかにすることを目的に文献検討を行った。これにより、「気になる子ども」の支援につなげる一資料になると考えた。

## 2. 用語の定義

本研究では、次のように用語を定義した。

「気になる子ども」

先行研究<sup>12)</sup>を参考に、「調査時点では何等かの障害があると診断されていないが、保育者にとって行動や反応、保育が難しいと考えられて

いる個別の配慮が必要な子ども」とした。

「保育者」

就学前施設に勤務する保育士および幼稚園教諭を指す。

「子ども」

保育園や幼稚園、こども園などの就学前施設に通う就学前の子どもを指す。

## II. 研究目的

本研究の目的は文献検討により、保育者が子どものどのような行動を「気になる」と捉えているのかを明らかにした。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

文献検討

### 2. 文献の抽出方法

文献の検索は、医学中央雑誌 Web 版 Ver.5（以下、医中誌とする）および CiNii Articles（国立情報学研究所論文情報ナビゲーター）の検索データベースを用いた。キーワードは、「保育」「気になる」「行動」を AND 検索し、「気になる」子どもの増加が指摘された<sup>13)</sup> 2001年から2022年の21年の期限を設けた（最終検索年月日：2022年9月10日）。その結果、CiNii Articlesで論文のみが検索結果に表示されるタグを選択し105件、医中誌では「会議録を除く」「原著論文」の項目を選択し105件であった（重複あり）。「気になる子ども」の用語の定義に則して、調査対象が保護者や児童、既に診断がされている子ども、就学前施設以外の子どものみならず、外国人園児や被虐待児は除外した。抄録や本文を精読した結果、保育者支援のための調査や尺度開発、実践研究がほとんどであり、「気になる子ども」の行動の特徴を調査した研究に限定したため24件となった。

## IV. 分析方法

分析対象となった24件の文献について精読し、保育者が「気になる」と捉えている行動を抽出し、あわせて保育者がどのような観点で気になっているのかについて分析した。保育者が「気になる」行動を各文献から抽出し、特徴の類似性を分析した。

## V. 結果

### 1. 文献の概要

分析対象となった文献の概要を表1に示す。対象文献の出版年は2001～2021年であった。論文の種類は原著、報告、資料、その他であった。研究方法は量的研究が多く、質問紙調査が20件であった。半構造化面接が2件、事例検討が1件であった。質問紙調査と事例検討を組み合わせた研究が1件であった。

## VI. 記述内容の分析

対象文献に記述された内容を分析した結果を表2に示す。子どもの「気になる」行動の内容は、保育者が困っている「気になる」行動、他児への関心の示し方が定形発達にみえない「気になる」行動、子ども本人が困っているようにみえる「気になる」行動、他児が困っているようにみえる「気になる」行動の4つに大別された。

表1 分析対象文献

番号	著者	論文名	年	目的	掲載雑誌	方法
①	肥後 功一	「気になる子」の心理臨床的理解(第1報) —保育者による「気になる子」の記述から— <sup>14)</sup>	2001	保育者側の実感を起点とした場合の基礎的資料を得ること	教育臨床総合研究紀要1, 61-77	質問紙調査
②	本郷 一夫, 澤江 幸則, 鈴木 智子 他	保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究 <sup>15)</sup>	2003	保育所における「気になる」子どもの特徴を捉えること	発達障害研究, 25, 1, 50-61	質問紙調査
③	平澤 紀子, 藤原 義博, 山根 正夫	保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究—障害群からみた該当児の実態と保育者の対応および受けている支援から— <sup>16)</sup>	2005	保育所において「気になる・困っている行動」を示す子どもの実態について、子どもの診断や知的障害の有無から検討し、必要な支援内容や支援体制について考察すること	発達障害研究, 26 (4), 256-267	質問紙調査
④	池田 友美, 郷間 英世, 川崎 友絵 他	保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究 <sup>17)</sup>	2007	「気になる子ども」の保育をすすめるうえでどんな問題があるのか明らかにすること	小児保健研究, 66, 6, 815-820	質問紙調査
⑤	下野 未沙子, 稲富 眞彦	保育所における「気になる」子ども —行動特徴、保育者の対応、親子関係について— <sup>18)</sup>	2007	「気になる」子どもへの援助、親に対する支援を検討すること	高知大学教育学部研究報告, 67, 11-20	質問紙調査
⑥	橋本 重希子, 遠矢 浩一	保育園支援における「気になる子」の実態と発達検査の活用 <sup>19)</sup>	2008	実際の保育現場で保育士がどのような子どもを「気になる子」として感じているのかを明らかにすること	リハビリテーション心理学研究, 35, 1-9	半構造化面接
⑦	久保山 茂樹, 齊藤 由美子, 西牧 謙吾 他	「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査—幼稚園・保育所への機関支援で踏まえるべき視点の提言— <sup>20)</sup>	2009	特別支援学校の相談担当者や研究者等が幼稚園、保育所へ機関支援を行う際に留意すべき事項を検討すること	国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 55-76	質問紙調査
⑧	本郷 一夫, 飯島 典子, 平川 久美子	「気になる」幼児の発達と遅れと偏りに関する研究 <sup>21)</sup>	2010	「気になる子ども」の支援の在り方を検討すること	「気になる」幼児の発達と遅れと偏りに関する研究, 58 (2), 121-133	質問紙調査
⑨	竹内 貞一, 坪井 寿子	保育園における「気になる子ども」の現状と支援の課題 —足立区内の保育園を対象として— <sup>22)</sup>	2010	保育士が子どもたちのどのような面を気にしているのかを明らかにすること	東京未来大学研究紀要, 3, 77-83	質問紙調査
⑩	前田 和子, 譜久山 民子, 宮城 雅也 他	保育士による発達障害児の早期発見と早期支援の課題 —沖縄県南3市における質問紙調査— <sup>23)</sup>	2010	保育士が発達障害児又は疑いのある子どものどのような点が気になり、彼らにどのような支援を実施しているかを把握すること	沖縄県立看護大学紀要, 11, 31-37	質問紙調査
⑪	玉井 ふみ, 堀江 真由美, 寺脇 希他	就学前における「気になる子ども」の行動特性に関する検討 <sup>24)</sup>	2011	保育士の観点から発達や行動の気になる就学前児の行動特性の実態を明らかにすること	県立広島大学保健福祉学部誌, 11 (1) 103-112	質問紙調査
⑫	西村 智子, 小泉 令三	舞鶴市における発達障害児の実態とニーズに関する調査研究 <sup>25)</sup>	2011	発達障害の「気づき」のための「気になる」子の行動特徴を明らかにすること	研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学関連論文集—5 (1), 1-11	質問紙調査
⑬	前田 泰弘, 小笠原 明子	保育園における幼児の気になる行動と身体感覚の偏倚の関連性 <sup>26)</sup>	2011	幼児の気になる行動と身体感覚の偏倚との関連性、ならびに身体感覚の発達を考慮した保育の在り方について検討すること	東北福祉大学研究紀要, 35, 147-155	質問紙調査
⑭	増田 貴人, 石坂 千雪	「気になる子」への保育援助をめぐる保育者の認識と戸惑い <sup>27)</sup>	2013	「気になる子」をめぐって保育者が感じる戸惑いや認識の実態を踏まえ、保育者が相談するときに重要視するものを明らかにすること	広前大学教育学部紀要, 110, 117-122	質問紙調査
⑮	松下 聖子, 伊藤 眞理子	幼児期の気になる子どもへの保育士への関わり方の事例 <sup>28)</sup>	2013	保育士が捉える気になる子どもとはどのような子どもなのかその特徴を明らかにすること	沖縄の小児保健, 40, 38-44	半構造化面接
⑯	津田 朗子, 木村 留美子	保育所における発達障害の早期発見・早期介入を阻害する要因の検討—「気になる子ども」に対する保育士の認識と支援体制から— <sup>29)</sup>	2014	「気になる子ども」に関する保育士の認識と支援体制を明らかにすること	金沢大学つるま保健学会誌, 38 (2), 25-33	質問紙調査
⑰	遠藤 明代, 小保内 俊雅, 稲田 尚子, 他	保育所・幼稚園に在籍する気になる年中児の行動と発達に関する保育者意識調査 <sup>30)</sup>	2014	保育者の視点で行動や発達に懸念のある5歳児が、どのように把握されているのかについて明らかにすること	日本小児精神神経学機関誌, 54 (3), 229-241	質問紙調査
⑱	川越 奈津子, 鈴木 万喜子, 郷間 安美子 他	幼児期における「気になる子ども」の行動特徴 <sup>31)</sup>	2017	保育者がとらえる「気になる子ども」を「目立つタイプ」と「目立たないタイプ」に分けて比較検討することで、「気になる子ども」の行動特徴を明らかにすること	特別支援教育臨床実践センター年報, 7, 93-101	質問紙調査
⑲	奈村 美里	「気になる」幼児の発達と遅れと偏りに関する研究 <sup>32)</sup>	2018	保育現場で役立てることができる「気になる子ども」に対する支援のための情報を臨床心理学的立場から提案すること	淑徳心理臨床研究, 15, 1-15	質問紙調査
⑳	小柳津 和博	特別な支援を必要とする子どもの理解と対応に関する研究 —保育所に在籍する子どもの行動に着目して— <sup>33)</sup>	2018	保育所に在籍する子どもの「気になる行動」および、実行している具体的な対応、支援の方策について、保育士の所属や年齢によって差異があるのかについて検証すること	桜花学園大学保育学部研究紀要, 18, 13-23	質問紙調査
㉑	久米 紗生, 松本 有貴	保育者の「気になる子」の早期発見・早期支援のために一簡易質問紙によるスクリーニング (SDQ) の有効性の検討— <sup>34)</sup>	2018	気になる子どもを早期発見・早期支援するために、保育者がSDQの質問紙調査を用いて問題を理解する有効性を検討すること	徳島文理大学研究紀要, 96, 135-141	事例検討
㉒	大谷 文子, 久野 加帆里	子どもの気になる行動や姿にある意味を理解する —子どもの「こころの揺れ」を通して— <sup>35)</sup>	2018	「気になる子ども」の行動や姿から、子どものこころの揺れの意味を理解すること	全国保育士会研究紀要, 28, 84-93	質問紙調査、事例検討
㉓	嶋野 重行	「気になる」子どもに関する研究—保育所の154事例をととした行動特徴の要因分析— <sup>36)</sup>	2020	保育所の「気になる子ども」の14事例をととして、顕著性の高かった行動特徴の諸要因を検討すること	盛岡大学短期大学部紀要, 31, 39-53	質問紙調査
㉔	落合 利佳	「気になる子」に関する保育者の意識と支援の実態 —保育所アンケートからクラス構成に着目して— <sup>37)</sup>	2021	保育現場で「気になる子」の「気になる内容」への意識と支援の実態を明らかにすること	京都女子大学発達教育学部紀要, 17, 1-11	質問紙調査

1) 保育者が困っている「気になる」行動

(1) 保育者の指示や呼びかけを聞けない

保育者は、保育者の指示を理解できない子どもの行動を「気になる」と捉えていた。保育現場で保育士がどのような子どもを「気になる子」として感じているかを明らかにした研究（文献⑥）で

は、日常保育で保育士が気になる行動として言葉の理解が難しいと語っており、「保育者の『待つ』がきかずに動いてしまう」ことが報告されていた。保育者が気になる子どもをどのように認識しているのか調査をした研究（文献⑨）では、人の名前や、物の名称は理解できているが、おい

表2 カテゴリー一覧

	カテゴリー	サブカテゴリー
保育者が困っている「気になる」行動	保育者の指示や呼びかけを聞けない	指示に従わない / 指示の内容が理解できない / 全体へ指示した内容が理解できない / 話を聞かない / 名前を呼んでも反応しない / 声かけに反応しない
	子どもとの会話が成立せず、想定しない反応をする	話が噛み合わない / 一方的な会話をする / 質問に返答できない / 奇声・大声をあげる / 乱暴な言葉遣い / 独語が多い / おうむ返しをする / 多言・自己弁護が多い / 批判的、命令的な口調で話す / 虚言が多い
	保育者の表情や保育者との接触の加減が分からない	目や顔色を見て保育者へ何かを訴える / アイコンタクトがとれない / 相手の気持ちや表情が理解できない / 他児に対する接触が多い / 保育者に対する接触が多く、依存が強い / 接触を拒否する
	集団保育に参加しても遊べず、衝動的な行動をとる	一人遊びを好む / 集団の輪の中に入らないうる / 集団に入っても同じことをしない / 動き回る / 落ち着いてられない / じっとしてられない / 目や手が動いている / やることに集中できない / ぼうっとしている / やる気がみえない / 活動性が低い、活動に対して消極的である / 行動が遅い / 動きが緩慢でぶつかる
他児への関心の示し方が定形発達にみえない「気になる」行動	他児に関心を示せない	他児と関わらない / 特定の人としか関わらない / 同年齢の子どもと関われない / 他児への興味を示さない
	衝動的な行動をとる	自分の欲求が抑えられない / 自分勝手に行動する / 部屋などから飛び出していく / 禁止されていること、危険なことをする / 思い通りにならないと自分や周囲に八つ当たりする
	順応性が低いことによる抵抗や反応	行動や遊びが切り替えられない / 順番を守れない / 遊びに偏りがある / 行動にこだわりがみえる / 癖がある / 意にそぐわないと態度に表す / 新しいことを嫌がる / ルールが理解できない / 状況が把握できない
	極端に自分の感情を表現する	感情の調整ができない / 情緒が安定しない / パニックを起こす / 何かをすることを怖がる / すぐに泣く / 怒りやすい
	感情や自分を表現できない	意思表示ができない / 表情の乏しさがある / 子どもらしさがみえない
子ども本人が困っているようにみえる「気になる」行動	日常生活の動作ができない	身支度ができない / 偏食・異食がある / 寝つきや寝起きがスムーズでない
	身体がうまく使えない	行動が積み重ね、模倣ができない / 加減ができない / 姿勢や体動がうまくできない / 手先が不器用である
他児が困っているようにみえる「気になる」行動	他児に衝動的な行動や折り合いがつけられない行動をとってしまう	他児を噛む / 感情的になる手が出る / 人や物に乱暴する / 自分より年下の子どもを傷つける / 保育者の見えないところで暴力を振るう / 他児と折り合えない

で、座る、洗うなどの日常生活動作に関する簡単な動詞が理解できず、それらの行動ができないことを保育者は「気になる」と捉えていた。特定の子どもに対する個別の指示だけでなく、クラス全体への指示を理解できない子どもがいることも保育者は気になっていた（文献⑱）。

また、保育者は呼びかけなどに反応しない子どもの行動に困っていた。保育者は「他のことが気になって、保育者の話を最後まで聞けない」子どもの行動を気になると捉える傾向があった（文献②、⑤、⑧）。他にも「名前を呼んでも反応しない」（文献⑳）ことや、「何を言っても返事をしない」（文献㉑）ことなどが挙げられていた。

### （2）子どもとの会話が成立せず、想定しない反応をする

保育者は子どもとの会話がうまくできないことや、子どもからの想定しない反応があることに困惑していた。保育者が気になる子どもをどのように認識しているのかについて調査をした研究があった（文献⑨）。この文献では、低年齢の子どもは喃語が少ないなどの言語発達に関することが「気になる」とされていたが、発達が進むにつれてボキャブラリーが極端に少なく会話が続けられないことや、一方的に話す質問は上手に答えられないなど、言語的コミュニケーションに言及したものが増加していることが報告されていた。

保育者が子どもに抱く違和感を調査した研究（文献①）では、保育者が子どもの話す言葉に「気になる」特徴を見出していた。具体的には「突然、奇声を発する」ことや、「テレビの内容を中心とした独り言をずーっと話し続けている」ことなど、話し相手の存在を意識していないような行動があった。さらに、「注意されるときに、どう説明しても『でも…でも…』と繰り返し自分中心の理由を言い続ける」ことや、「見え透いたウソが多い」ことなど、言い訳するような行動もあった。また、「言葉づかいが極端に悪い」「他児への命令、指示等が多い」「おうむ返しが多きある」といった言語的コミュニケーションの方法が「気になる」と捉えていた。

### （3）保育者の表情や保育者との接触の加減が分からない

保育者は子どもの表情や他者との接触について「気になる」と捉えていた。保育者が子どもに抱

く違和感を調査した研究（文献①）では、子どもの行動に保育士を過度に気にしている印象を受け、保育者はそれに違和感を抱いていた。「言葉ではなく眼や態度で訴えてくる」ことや、「保育士の顔を見ながら、様子をうかがいながら行動する」ことなどが気になっていた。他にも、「視線が合わないし、合わせようとしなない」（文献①）ことや、「保育士の表情から禁止などのニュアンスを読み取ることができない」（文献⑲）ことなどを「気になる」と捉えていた。

他者との接触について、文献①では、「過剰な甘え」と「過小な甘え」の双方が「気になる」と捉えられていた。相手が保育士であっても子どもであっても、子どもは「誰かれなく抱きついて離れようとしなない」といった、他者に対する接触行為をとっていた。一方で、保育者が「頭をなでようとする」と逃げようとする」行動や、「抱きしめると顔はうれしそうだが、身をそらせたり手がつっぱったりしている」といった行動を取り、接触を拒否するような姿も見せていた。

### （4）集団保育に参加しても遊べず、衝動的な行動をとる

保育者は集団保育での子どもの「気になる」行動を捉えていた。保育者は「集団生活に参加できない」（文献⑳）といった友だちの輪に入れないことを気にかけていた。保育所で「気になる・困っている行動」を示す子どもの実態調査（文献③）では、「気になる子ども」を診断のある群（知的障害群、知的障害以外群）と診断のない群に分けて、調査を行った。その結果、診断のない群の「気になる」行動の上位には、「集団活動で勝手に落ち着きなく動き回ったり、皆とずれてしまう」というような集団活動に関する項目が挙がり、さらに集団場面より、一対一場面の方が落ち着いていられる（文献②、⑤、⑧、⑫）などの一人遊びを好む行動が多くみられると報告されていた。保育者は、集団における子どもの衝動性や行動の頻度についても困難感を示していた。臨床心理学の立場から支援を検討するために、保育者が認識する「気になる子ども」の実態を調査した研究（文献⑲）では、保育士が強い困り感を感じる場面として、「嫌なことがあると、衝動的に保育室を飛び出してしまう」といった、子どもの突発的で予測が難しい行動が挙げられていた。さら

に、「自分中心の行動がほとんどで集団を乱すことが多い」(文献⑪)ことや、「気に入らないとゴミ箱をぶちまける、服を全部脱いで外に出ていく」(文献①)ことや、「走り回る」(文献⑬)ことなど、他児の保育に影響を与えかねない状況も報告されていた。また、「気になる子」の行動の意味を理解するために行動を省察した研究(文献⑫)では、静かに椅子に座ることを求める場面の様子が示されていた。保育者が静かにするように子どもに伝えたところ、子どもは納得したかのような反応をみせたものの手を揺らしたり、足踏みしたりしていた。再度、保育者がじっとするように注意を促しても、子どもは椅子の背もたれの上に座る等の落ち着きのなさをみせていた。

保育者が子どもに抱く違和感を調査した研究(文献①)では、「待つことがすこしもできず、絶えず歩き回っている」子どもや、「一つの遊びに集中できず、すぐ他の遊びに移っていく」子どもに、保育者は違和感を持っていた。落ち着かない様子が報告されている一方で、「ボーっとしていて、行動しない」様子や(文献④)、「理解力はあるが、やろうとしない」様子(文献⑦)、さらに「やる気がないことが多い」(文献⑱)など、子どもに活気がみられない様子があった。加えて、「自分で遊びが見つけられない」(文献⑥)などの活動性が低いこと、「全体的に理解が難しく、全てにおいて他児のペースについていけない」(文献⑥)などの行動が遅いことも報告されていた。

## 2) 他児への関心の示し方が定形発達にみえない「気になる」行動

保育者は、子ども同士の関わりの中で、他児への関心が希薄な子どもの行動を「気になる」と捉えていた。保育士が発達障害児や、発達障害疑いのある子どものどのような点が気になっているかを調査し、年齢別に分析した研究(文献⑩)では、3歳ごろから対人関係における問題が出現し、他児への関心の乏しさや他児と関われないことが報告されていた。例えば、友だちとの遊びが続かないといった遊びの場面での様子を保育者は気になると捉えていた。他児への関心は、他にも「同年齢より年下の子と遊ぶ方が安心できる」(文献⑪)ことや、「同年齢の子どもと上手く関われない」(文献⑲)ことなど、異なる年齢の子どもと

は遊べるが同年齢の子どもとは遊べないといった行動も気になっていた。

保育者は子どもが自身の世界に没入するような行動を「気になる」と捉えていた。保育士が「気になる子ども」と捉えた子どもの特徴を明らかにした研究(文献⑮)では、「遊び時間を守らない」ことや、「食事時間、列に並ぶことができない」といった保育園内の決まりごとを守れないことで対人関係に影響を及ぼす子どもの行動が報告されていた。他にも文献⑫では、「決まった遊びをしたがる」ことや、「好きな道具、場所、生き物に固執する」ことなどの遊びの偏りやこだわり、文献①では「自分の思ったように友だちがしてくれないとすねる」といった意にそぐわない態度に表れる行動、「新しい経験に抵抗がある」などの新しいことを嫌がる行動、文献⑱では「場の状況に合わない行動をとる」ことなどが挙げられた。

また、保育者は周囲を顧みずに感情を表出するような子どもの行動を気にかけていた。発達障害の「気づき」のために「気になる」子の行動特徴を明らかにした研究(文献⑫)では、保育者は「一度怒るとなかなかおさまらない」ことや、「やりたいことを周りからとめられるとかんしゃくを起こす」といった行動について、発達障害かどうかの判断ができずに困っていることが報告されていた。さらに、保育者が子どもに抱く違和感を調査した研究(文献①)では「自分の意にそわなことをされると泣いて怒る」ことや、「自信がなさそうなおどおどした感じ」などの多くの感情表出について、「気になる」と捉えていた。

極端な感情表出が「気になる」とされている一方で、「欲求や感情の表出が少ない」(文献⑬)ことなど、感情表出の乏しさもあった。さらに、「困っているときになかなか言葉で援助を求めない」(文献⑳)といった意思表示のなさや「喧嘩やいたずらする他児を見て『仕方ないなあ、私はしないよ』など、『いい子』の表現ばかり出る」(文献①)ことなどを、子どもらしさがみえない行動として挙げられていた。

## 3) 子ども本人が困っているようにみえる「気になる」行動

保育者は、日常生活動作や身体活動がうまくできない子どもの行動を「気になる」と捉えてい

た。保育者が子どもに抱く違和感を調査した研究（文献①）では、「園の生活リズムやきまりを身につけるまでかなりの時間がかかる」ことや、「朝、まだ目覚めていない感じで、ボーっとしていたり生あくびが多かったりする」ことなどを捉えていた。つまり、園での生活や活動における、一般的な適応行動を基準としたときの保育士の違和感として捉えた子どもの行動が気になっていた。

協応運動や微細運動に関連する手先の不器用さについて、5歳児で気になる割合が高かったことが報告されている研究があった（文献⑭）。また、「絵を描いたり物を作ったりすることが苦手」とみられる行動や（文献⑪）、「目や手の協調が苦手」とみられる行動（文献⑰）や、「ごっこ遊びや見立て遊びが苦手である」（文献⑱）ことなど、製作や遊びの中でみられる不器用さが保育者にとって「気になる」とされていた。

#### 4) 他児が困っているように見える「気になる」行動

保育者は、他児に影響が及ぶ行動を「気になる」と捉えていた。臨床心理学の立場から支援を検討するために、保育者が認識する「気になる子ども」の実態を調査した研究（文献⑲）で、保育者は、「おもちゃを取られるなど、嫌なことがあるとカッとなって、他児を噛んだり、叩いたりする」といった他児の安全性が危ぶまれる子どもの行動に困り感を抱いていた。他にも保育者は、「言葉より先に手が出る。不満が態度に出る」（文献⑳）ことや、「すぐカッとなり手が出る」（文献⑪）ことや、「友達や動物によく乱暴する」（文献⑭）ことなど感情的になって手が出る行動を気にかけていた。さらに、文献①では、「ちょっと離れたところで小さい子をつねる」ことや、「保育者の見えないところで他児をけったり叩いたりしている」ことなど、同年齢の子ども以外の暴力や保育者に認識されにくいような場面での暴力も報告されていた。

## Ⅶ. 考 察

### 1. 保育者が「気になる」目にとまりやすい行動と目にとまりにくい行動

本研究によって保育者は、衝動的な行動などの動きが大きく目にとまりやすい行動から感情表出

の乏しさなどの動きが小さく目にとまりにくい行動まで様々な行動を「気になる」と捉えていることが明らかとなった。保育者にとって目にとまりやすい行動は、集団で生活する場での行動と考えられる。保育所保育指針における保育の方法に「子ども相互の関係づくりや互いに尊重する心を大切にし、集団における活動を効果あるものにするよう援助すること」と示されている<sup>38)</sup>。保育者は就学前施設で「自分中心の行動がほとんどで集団を乱すことが多い」などの集団の調和が乱れ、「保育者の『待つ』がきかずに動いてしまう」ような他児と違う行動をとることでその子どもが目にとまり、気になっていると考えられる。実際に、保育者は集団保育で保育を展開していくことが難しかったり、個別の対応が必要になったりしたときに「気になる」子どもと認識される傾向がある<sup>39)</sup>。

保育者は「気になる子ども」の保育に関して、担任一人で保育を行う場合、当該児の思いに応えられないことでトラブルになり、集団活動を中断しなければならないという「気になる子ども」を含めた集団活動に困難感を抱いている<sup>40)</sup>。保育者が「気になる子ども」に配慮できる保育をするために保育者の数を増やすことや、担任ではない保育者を配置するなど保育体制を強化していくことが重要となるが、保育所看護師の協働も考慮し、役割を明確にしていく必要がある。就学前施設には保育所看護師を配置している施設もある。保育所看護師の保育保健活動には、保育士が不安なく保育業務に専念できるように支援する役割が期待されている<sup>41)</sup>。保育者が困っている場面で、看護職が予防的に介入することも必要ではないかと考える。

一方で、本研究では目にとまりにくい「気になる」行動も保育者が捉えていることが明らかとなった。保育者は、気になる子どもの行動の意図が分からないことが多く、理解しがたい言動を読み取ることができず、気になる子どもとの関係が築きにくいことから違和感を抱きやすい<sup>42)</sup>。保育者が違和感を抱きやすい背景にインクルーシブ保育との関係が考えられる。インクルーシブ保育とは「多様性を価値とし、どの子どもも排除されることなく個々の違いが尊重され活かされる保育」である<sup>43)</sup>。障害のある子どもと定型発達の子どもの

一緒に生活していくなかで、保育者は個性と障害の区別ができないことに苦慮していた。本研究でも、視線が合わない、表情が乏しい、独り言やおうむ返しがある、接触を嫌がるといった自閉スペクトラム症が疑われるような行動が挙がっていた。そのような行動に対して保育者は、「どのように対応してよいか分からない」<sup>44)</sup> や、「気になる様子が経験不足からなのか、障害からなのか判断がつかない」<sup>45)</sup> というように、「気になる子ども」の行動が、その子どもの個性か障害かの判断できずに困惑していた。

このような保育者の困難感を解決するために、他の専門職と保育者をつなぐ必要がある。保育者は「気になる子ども」の支援について適切な相談先が分からないと困難を抱えていることが報告されている<sup>45)</sup>。この課題を解決するためには、まず相談内容を確認し、適切な相談先につなげる身近な窓口が必要となる。連携のための調整をすることは看護職の役割の一つである。看護職は、それぞれの職種の専門性を尊重し、お互いが補い合えるような連携がとれるように調整していく役割を果たすことが期待されている<sup>46)</sup>。今後、就学前施設に携わる看護職が保育者からの相談を、他の専門職や支援機関へつなげられるような環境づくりが求められる。そのためには、看護職が窓口となり、関係機関をつなぐシステム作りが必要であると考えられる。

## 2. 「気になる」行動をとる子どもを考慮したクラスづくり

本研究で明らかになった保育者が「気になる」子どもの行動は、保育者のみならず、子ども本人や他児も困っていることが考えられた。それは子ども同士のトラブルに発展することが関係していると推察された。例えば、他児を叩いたり、かみついたりする行動や子ども自身が感情調整できずに怒りやすいこと、ルールや順番が守れない行動に加えて、乱暴な言葉遣いをするなど対人トラブルにつながるものが考えられる行動が挙げられていた。子どもの集団内で発生するトラブルは「気になる子ども」だけでなく、他児の安全も脅かされる突発的な事態と言える。急迫した状況では「気になる子ども」と他児の双方の安全を守る対応が保育者に求められることになる。

また、トラブルの原因は「気になる子ども」のみにあるとは限らない。保育者は「気になる子ども」本人の気持ちだけでなく、他児との関係にも目配りする必要がある。「気になる子ども」が悪い子どもと他児がレッテルを貼らないように、必要な時には周囲が助け合えるクラスづくりを心がけていた<sup>16)</sup>。加えて、「気になる子ども」の保育においては、「気になる子ども」を含む集団の保育実践をクラス運営のあり方や方法論も含めて多面的に検討することの重要性が指摘されている<sup>47)</sup>。

多面的に検討するには他の専門職や専門機関との連携が必要となる。先行研究では、保育士と看護師が協働して、気になる子どもにタッチケアを行ったことにより、クラス全体が穏やかになり、子ども同士が仲良く遊ぶようになったという変化があったと報告されている<sup>48)</sup>。トラブルを未然に防ぐためには、園内外の専門職と関係機関が丸となり、子どもの支援を行っていくことが必要となる。就学前施設に関わる看護職は、看護の専門性を発揮し、多様な支援方法を保育者と考えながら子ども支援の体制を構築できるように役割を担っていくことが課題である。

## 3. 保育者がゆとりをもって子どもに関われる保育体制づくり

本研究で明らかとなった子どもの「気になる」行動には、「自分の意にそぐわないと泣いて怒る」などの情緒に関する問題が挙げられていた。情緒に関する問題は非行少年においても類似した内容が報告されている。法務省法務研究所の調査<sup>49)</sup>では、少年院教官は非行少年の処遇において「人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠ける」、「自分の感情をうまくコントロールできない」ことに困難を感じていた。感情をうまく調整できないことに起因する子どもの行動は、周囲に助けを求めるサインであり、適切な感情表現や意思表示ができるように援助する必要がある。

先行研究では、気持ちや要求をうまく伝えられず、かんしゃくを起こす子どもとの関わりを「先生にどうしたいのか、ゆっくりお話を聞かせるから落ち着いてね」と個別に感情を聞き、受け入れるように関わり方を変化させたところ、子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるようになったと報告さ

れている<sup>50)</sup>。非行予防では「人に助けを求める力」を形成するための発達支援を保証していくことが課題とされている<sup>3)</sup>が、非行予防に限らず「気になる子ども」の支援としても「気になる子ども」が周囲に助けを求められるような保育体制を検討する必要がある。そのためには、保育者が子どもに対してゆとりをもって関わられるような保育体制が必要である。しかし、担任の保育者は心のゆとりが持てず、子どもに丁寧に関わるができない状況が指摘されている<sup>51)</sup>。

看護職が配置されている就学前施設では、看護師の存在や看護師のクラス巡回で保育士は安心感を抱き、保育者は保育に専念できることが報告されている<sup>52)</sup>。保育者が「気になる子ども」も含めた子どもの保育に専念できるよう保育者を支援するためには、就学前施設に看護職の配置を普及させ、看護職と保育者がそれぞれの専門性を発揮できるような保育体制づくりが必要であると考えられる。

## VIII. 結 論

保育者は子どもの行動について、集団保育に参加できないなどの保育者が困る行動、大人や他児への関わりが少ないなどの他児への関心の示し方が定形発達にみえない行動、日常生活動作がうまくできないなどの子ども本人が困っているようにみえる行動、他児に乱暴するなどの他児が困っているようにみえる行動を「気になる」と捉えていた。保育者が「気になる」と捉えた行動は、動きが大きく目にとまりやすい行動から動きが小さく目にとまりにくい行動まで、幅広く捉えられていることが分かった。

今回は調査方法が質問紙調査の単純集計であった文献が多く、「気になる」行動がどのようなきっかけがあって起こった行動なのか把握しにくい内容が多かった。例えば、「乱暴をする子」と記載があっても他児とトラブルがあったのか、突発的に乱暴したのかが分からない行動があった。しかし、その中でも保育者が多種多様な行動を「気になる」と捉えていることがわかった。今後、より具体的な「気になる」場面を調査するためには、参加観察などの研究手法で調査することによって、看護職としての支援を明確にする必要がある。

この研究の一部は、26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 (2023年3月東京)で発表した。

### 引用文献

- 1) 法務省：平成29年少年矯正統計調査 新収容者の非行名別 精神診断及び知能指数, <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250006&tstat=000001012846&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=000001012847> (参照 2023-01-12)
- 2) 法務省：令和3年少年矯正統計調査 新収容者の非行名別 精神診断及び知能指数, <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250006&tstat=000001012846&cycle=7&year=20210&month=0&tclass1=000001012847> (参照 2023-01-12)
- 3) 内藤千尋, 田部絢子, 高橋智：発達に困難を抱える子どもの非行(虞犯・触法・犯罪)の実態と支援の課題：少年鑑別所・少年院の職員への全国調査から, 発達研究 発達科学研究教育センター紀要, 30, 103-115, 2016.
- 4) 谷口智英：発達障害のアセスメントの重要性に関する一考察——不登校を呈し、成人期にASD (Autism Spectrum Disorder) と診断された事例を通して——, 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要, 10, 119-126, 2015.
- 5) 社会福祉法人日本保育協会：保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書, <https://www.nippo.or.jp/Portals/0/images/research/kenkyu/h27handicapped.pdf> (参照 2023-01-12)
- 6) 榎屋二郎：非行臨床と発達精神病理学, こころの科学, 日本評論社, 東京, 49-53, 2015.
- 7) 原口英之, 野呂文行, 神山努：保育所における特別な配慮を要する子どもに対する支援の実態と課題——障害の診断の有無による支援の比較——, 障害科学研究, 37, 103-114, 2013.
- 8) 佐久間庸子, 田部絢子, 高橋智：幼稚園における特別支援教育の現状——全国公立幼稚園調査からみた特別な配慮を要する幼児の実態と支援の課題——, 東京学芸大学紀要 総合教育課学系, 62 (2), 153-173, 2011.
- 9) 厚生労働省：平成29年度障害者総合福祉推進事業報告書 巡回支援専門員による効果的な子育て支援プログラムに関する調査とその普及, <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000307928.pdf> (参照 2023-01-12)
- 10) 中山かおり, 齋藤泰子：発達障害児とその家族に対する保健師の支援技術の明確化——就学前の子どもの社会性を身につけるための支援——, 小児保健研究, 66 (4), 516-523, 2007.

- 11) 大塚敏子, 巽あさみ: 「気になる子ども」をもつ保護者への支援における保健師と保育士の連携経験と相互役割期待, 日本看護研究学会雑誌, 41 (4), 651-663, 2018.
- 12) 本郷一夫, 澤江幸則, 鈴木智子, 他: 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究, 発達障害研究, 25 (1), 50-61, 2003.
- 13) 大河内彩子, 田高悦子: 「気になる子ども」の概念分析 保健・医療・保育・教育職の認識, 横浜看護学雑誌, 7 (1), 1-8, 2014.
- 14) 肥後功一: 「気になる子」の心理臨床的理解 (第1報) — 保育者による「気になる子」の記述から —, 教育臨床総合研究紀要 I, 61-77, 2001.
- 15) 本郷一夫, 澤江幸則, 鈴木智子, 他: 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究, 発達障害研究, 25 (1), 50-61, 2003.
- 16) 平澤紀子, 藤原義博, 山根正夫: 保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究 — 障害群からみた該当児の実態と保育者の対応および受けている支援から —, 発達障害研究, 26 (4), 256-267, 2005.
- 17) 池田友美, 郷間英世, 川崎友絵, 他: 保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究, 小児保健研究, 66 (6), 815-820, 2007.
- 18) 下野未沙子, 稲富眞彦: 保育所における「気になる」子ども — 行動特徴、保育者の対応、親子関係について —, 高知大学教育学部研究報告, 67, 11-20, 2007.
- 19) 橋本亜希子, 遠矢浩一: 保育園支援における「気になる子」の実態と発達検査の活用, リハビリテーション心理学研究, 35, 1-9, 2008.
- 20) 久保山茂樹, 齊藤由美子, 西牧謙吾, 他: 「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査 — 幼稚園・保育所への機関支援で踏まえるべき視点の提言 —, 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 55-76, 2009.
- 21) 本郷一夫, 飯島典子, 平川久美子: 「気になる」幼児の発達と遅れと偏りに関する研究, 「気になる」幼児の発達の遅れと偏りに関する研究, 58 (2), 121-133, 2010.
- 22) 竹内貞一, 坪井寿子: 保育園における「気になる子ども」の現状と支援の課題 — 足立区内の保育園を対象として —, 東京未来大学研究紀要, 3, 77-83, 2010.
- 23) 前田和子, 譜久山民子, 宮城雅也, 他: 保育士による発達障害児の早期発見と早期支援の課題 — 沖縄県南部3市における質問紙調査 —, 沖縄県立看護大学紀要, 11, 31-37, 2010.
- 24) 玉井ふみ, 堀江真由美, 寺脇希, 他: 就学前における「気になる子ども」の行動特性に関する検討, 県立広島大学保健福祉学部誌, 11 (1), 103-112, 2011.
- 25) 西村智子, 小泉令三: 舞鶴市における発達障害児の実態とニーズに関する調査研究, 研究論文集 — 教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集 —, 5 (1), 1-11, 2011.
- 26) 前田泰弘, 小笠原明子: 保育園における幼児の気になる行動と身体感覚の偏倚の関連性, 東北福祉大学研究紀要, 35, 147-155, 2011.
- 27) 増田貴人, 石坂千雪: 「気になる子」への保育援助をめぐる保育者の認識や戸惑い, 広前大学教育学部紀要, 110, 117-122, 2013.
- 28) 松下聖子, 伊藝真理子: 幼児期の気になる子どもへの保育士への関わり方の事例, 沖縄の小児保健, 40, 38-44, 2013.
- 29) 津田朗子, 木村留美子: 保育所における発達障害の早期発見・早期介入を阻害する要因の検討 — 「気になる子ども」に対する保育士の認識と支援体制から —, 金沢大学つるま保健学会誌, 38 (2), 25-33, 2014.
- 30) 遠藤明代, 小保内俊雅, 稲田尚子, 他: 保育所・幼稚園に在籍する気になる年中児の行動と発達に関する保育者意識調査, 日本小児精神神経学科機関誌, 54 (3), 229-241, 2014.
- 31) 川越奈津子, 鈴木万喜子, 郷間安美子, 他: 幼児期における「気になる子ども」の行動特徴, 特別支援教育臨床実践センター年報, 7, 93-101, 2017.
- 32) 奈村美里: 「気になる」幼児の発達と遅れと偏りに関する研究, 淑徳心理臨床研究, 15, 1-15, 2018.
- 33) 小柳津和博: 特別な支援を必要とする子どもの理解と対応に関する研究 — 保育所に在籍する子どもの行動に着目して —, 桜花学園大学保育学部研究紀要, 18, 13-23, 2018.
- 34) 久米紗生, 松本有貴: 保育者の「気になる子」の早期発見・早期支援のために — 簡易質問紙によるスクリーニング (SDQ) の有効性の検討 —, 徳島文理大学研究紀要, 96, 135-141, 2018.
- 35) 大谷文子, 久野加帆里: 子どもの気になる行動や姿にある意味を理解する～子どもの「こころの揺れ」を通して～, 全国保育士会研究紀要, 28, 84-93, 2018.
- 36) 嶋野重行: 「気になる」子どもに関する研究 — 保育所の154事例をととした行動特徴の要因分析 —, 盛岡大学短期大学部紀要, 31, 39-53, 2020.
- 37) 落合利佳: 「気になる子」に関する保育者の意識と支援の実態 — 保育所アンケートからクラス構成に着目して —, 京都女子大学発達教育学部紀要, 17, 1-11, 2021.
- 38) 厚生労働省: 保育所保育指針, <https://www.>

- mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyou-kintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf (参照 2023-01-12)
- 39) 鯨岡峻:「気になる子」から「配慮の必要な子」へ, “気になる子”の発達と保育, 149, 2-6, 2017.
- 40) 平野華織, 水野友有, 別府悦子, 他: 幼稚園・保育所における「気になる」子どもとその保護者への対応の実態——クラス担任を対象とした調査をもとに——(第2報), 中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要, 13, 145-153, 2012.
- 41) 遠藤幸子, 大西文子, 川島美保: 保育所看護職者の専門職として期待される保育保健活動と役割行動の現状, 小児保健研究, 77 (6), 653-664, 2018.
- 42) 守巧, 山崎撰史: 保育者はいかにして「気になる子」に対して困惑する気持ちを深めていくのか, 東京家政大学博物館紀要, 22, 157-164, 2017.
- 43) 芦澤清音: インクルーシブ保育を実現する保育形態についての一考察——主体的で豊かな遊びを保障する柔軟な保育をめざして——, 帝京大学教育学部紀要, 10, 85-97, 2022.
- 44) 山口浩明: A 市内保育所における「気になる子ども」の保育ニーズに関する調査研究, 柳川リハビリテーション学院紀要, 8, 26-32, 2012.
- 45) 尾崎啓子, 吉川はる奈: 私立幼稚園における「気になる子ども」の保育の困難さに関する調査研究——自由記述の分析を中心として——, 埼玉大学紀要, 教育学部, 58 (2), 197-204, 2009.
- 46) 二宮啓子: 小児看護とは, 二宮啓子, 今野美紀編, 小児看護学概論, 南江堂, 東京, 4-6, 2011.
- 47) 野村朋: 「気になる子」の保育研究の歴史的変遷と今日的課題, 保育学研究, 56 (3), 70-80, 2018.
- 48) 小島賢子: 保育園における「気になる子ども」の行動変化に向けた支援の有用性と今後の方向性——タッチケア実施記録の検討を中心にして——, 千里金蘭大学紀要, 17, 121-129, 2020.
- 49) 法務省: 法務省法務研究所 平成 17 年版犯罪白書のあらまし (第 4 編) 特集——少年非行, [https://www.moj.go.jp/housouken/houso\\_2005\\_hk1\\_4.html#4-0](https://www.moj.go.jp/housouken/houso_2005_hk1_4.html#4-0) (参照 2023-01-12)
- 50) 小沼豊: 発達支援者の省察が“気になる子ども”に与える影響について——療育における“気になる子ども”の変化を通して——, カウンセリング研究, 50 (2), 92-100, 2017.
- 51) 岡本美幸, 安田純: 「気になる子ども」への保育に対する保育士の困難さに関する研究, 美作大学・美作大学短期大学部紀要, 63, 57-62, 2018.
- 52) 片岡亜沙美, 矢野智恵, 山崎美恵子: 保育士の保育所看護職者への認識と期待する役割, 高知学園短期大学紀要, 42, 55-66, 2012.